

長崎新聞「どがんね？」のコーナーに、在京長崎応援団塾塾生の船越弘文さんへのインタビュー記事が掲載されました。

(平成21年6月22日付、長崎新聞社提供)

1年前、出身地の長崎市を「ふるさと納税」で応援しようと思い立った。手続きで長崎市東京事務所を訪ね、神近宣博所長と懇意に。訪ねやがて持ち掛けられた。「長崎伝習所の東京版を始める



在京長崎応援団塾塾生
ふなこし ひろふみ
船越 弘文さん(46)
長崎市出身



恩義ある故郷、役に立てれば

で生まれ育つたり、同市で勤務経験のある約40人。これまで会合をう回開き、アイデアを出し合っている。
長崎市で過ごしたのは高校卒業まで。懐かしい故郷に近年、悲痛な少年事件や前市長射殺事件が相次いだ。「本当はもっといい町なのに…」。気掛かりのまま過ぎていった矢先の塾の発足。「口幅つたいが、恩義のある長崎のために少しでもお役に立てれば」

塾の会合は白熱。長崎市での勤務経験者はその良さを絶賛するが、出身者は日本西端地の不利なども、つい考える。「長崎への愛着は共通でも見方は違う。勉強になる」。自身は、関東でふるさと納税への賛同者を増やすぞと意欲的だ。新日本製鉄(東京)で経営企画に携わる。海外出張などで「外の世界」を知れば知るほどでは、自分の原点とはと立ち返るようになつた。「長崎再発見」は、私の根っこを見詰め直すことでもあります」(東京支社)